

かちがらす



SAGA UNIVERSITY Magazine

佐賀大学 広報誌

No. 50

2024



《創刊 50 号記念特集》佐賀大学のこれから

- 社会で輝く先輩からのメッセージ
- 50 号記念 学内業務紹介
 - ◎ 教務課：本庄キャンパス全学生の修学から卒業、さらに留学生の大学生活も支える
 - ◎ 学生生活課：充実した大学生活を送れるように学生の皆さんをサポート
 - ◎ 医学部学生課：未来の医療を担う人材育成の場として学生に寄り添い、物心両面から支援
 - ◎ 社会連携課：地域や企業との連携に力を入れて「地域貢献度ランキング」全国 8 位に
 - ◎ 情報図書館課：学生や教員の学びと研究を支援する資料・情報・スペースが充実
 - ◎ ダイバーシティ推進室：どんどん変化する時代に、自信を持って社会の一員となれるよう多様性を推進
- 学生広報スタッフ責任編集 イキイキ佐大生／農学部・やながわ有明海水族館館長 亀井 裕介
- お知らせ／学生広報スタッフ「第2期生」始動





佐賀大学の これから

『かちがらす』50号を記念して、兒玉学長と
2023年10月に理事・副学長に就任された野口理事、大島理事、豊田理事にインタビュー。
進行中のプロジェクトや本学が目指す大学の在り方についてお話をいただきました。



国立大学法人佐賀大学 学長

兒玉 浩明 KODAMA Hiroaki

理学博士。佐賀大学理工学部、九州大学大学院理学研究科の後、佐賀大学理工学部にて勤務。以来本学に携わり、平成23年アドミッションセンター長、29年理事・副学長を経て、令和元年に国立大学法人佐賀大学学長就任

学生が成長を実感できる 新しい教学の場、さらに 高度な社会人教育の場へ

—学長就任後に策定された「ビジョン」から4年、現在どんな段階でしょうか。

ビジョン(下図参照)策定後、最初の2年間は老朽化した学内機器の更新など全学的な教育研究環境の整備を行いました。第4期に入ってから、ビジョンを形にしていける実行期に入っています。教育・研究分野だけでなく、地域のリスクリング(※)や、デジタルキャンパスを目指したDX化(※)に取り組んでいます。

—学長が提唱する「学生中心の大学づくり」とは、具体的にどのようなことでしょうか。

これまで大学側は、「大学は何を教えるか」を語りました。これから「学ぶ人が何を得られたか、何を学

べたか」を軸に、学生一人ひとりが成長を実感できる教育の実現を目指します。例えば、卒業生が就職した企業から「いろいろできるけれど何か足りない」と評価されたとします。それが語学力と分か

れば、大学は語学を強化。入試でも語学に意欲的な学生を求めると事前に伝えたいので選抜します。

入口(入試)、中期(修学)、出口(卒業、就職)を通して管理する新しい考え方で、このような体制をとることを「教学マネジメント」といいます。学生は成長を実感でき、大学は特長を打ち出すことができ、企業は採用がしやすくなります。令和4年に国へ申請し、「教育研究組織改革」分で助成を受けて環境を整備し、全国に先駆けて取り組んでいます。現在2年目で、学生が学修記録を残すポートフォリオからデータを集計中です。学生たちが成長をどう自覚しているか、今後ホームページの「教学IR」で公開する予定です。

—学生、読者の皆さまへ伝えたいことは？

佐賀大学のこれから—ビジョン2030—



「佐賀大学のこれから—ビジョン2030—」はこちらからご覧ください。
<https://vision.saga-u.ac.jp>



大学ができる地域貢献とは人材育成です。佐賀県は中小企業が多く、人材を確保しづらい面があります。柔軟性を持ちオールマイティに業務をこなせる人、就職後も新しい学びを続ける人の育成が必要でしょう。例えば理系技術者でもマーケティングが分かる、あるいは自分から学ぶ人です。

卒業生や社会人の学び直しの機会も提供していきます。ITのプロが講師を務める「DXリスクリングプログラム」(48号で紹介)も好評で、新しい技術を学びに全国から応募があります。さらに学生の出席管理のアプリ化も進めています。卒業後も連絡できる機能があり接点を維持できます。ホームカミングデーなどで「また佐賀大へ行ってみよう」と思ってもらえれば幸いです。

※リスクリング：新しい業務や職業に就くため学び直しやスキルを身に付けること
※DX：デジタル技術の活用により業務から環境までより良い変化をもたらすこと

県唯一の医学部として 佐賀の地域医療と 医療人育成に尽力

「佐賀大学のこれからのに向けた医学部及び附属病院での取組みを教えてください。」

佐賀県には医学部が本学のみです。すから、本学は県唯一の医療人養成の場となり、地域医療を支える人材育成の場となります。そこで医療人としての基礎を築く学生教育に力を注ぎながら新たな取組みをスタートさせました。

●学生実習コーディネーター配置

医学部教員は、学生教育と附属病院での高度先進医療、自身の研究、地域医療による社会貢献を担い、臨床系医師は医学部学生の臨床実習も担当しています。4月から「医師の働き方改革」新制度が開始される



医療担当理事(副学長、医学部医学科教授、附属病院長)

野口 満 NOGUCHI Mitsuru

医学博士。専門は泌尿器科学。佐賀県の前立腺がん罹患率・死亡率の高さに警鐘を鳴らし、健診の普及に努める。令和4年国立大学法人佐賀大学医学部附属病院長に。コンパクトな街で過ごしやすく、食とお酒の美味しさが佐賀の魅力という

中、これらすべてを担うのは困難であり、良い医療人育成に支障を来しかねません。そこで学生実習コーディネーター医師を配置し、産休から復帰した医師等に担ってもらうようにしました。全国でも画期的な取組みです。

●地域医療との連携

佐賀県と連携し、医師を目指す高校生に医学部進学セミナー等を行っています。また県内3つの病院に設置した「地域総合診療センター」で地域の先生方と一緒に技術を磨き、県全体の医療レベルの向上を図っています。さらに今後は地域の基幹病院に必要な医療機器を配布し、大学を卒業した若手医師の教

育体制の構築を検討しています。

「院内の食事に深川製磁製の食器を使い、待ち時間緩和のため駐車場を増築するなど先生のアイデアは斬新で行動もスピーディーです。その原動力は何でしょうか。」

それは目の前に困っている人がいるからです。行動が早いのは、これまでがん患者さんなどを診てきて「早くしないと手遅れになってしまふ」という危機感を常に持っているからでしょう。何かをするのなら、人に喜ばれることをしたほうがいい。それまでできるだけ早く。そう思っただけ行動しています。

「学生に伝えたいことは？」

本学は総合大学なので学部を越え

たコラボレーションも可能です。医療の分野でもデジタル化、ICT化は進んでいます。私も理工学部経済学部と一緒に取り組んでいきたいと考えています。医療は個人芸ではなくチームプレーですから、多くの人との交流が医療の現場でも役立つでしょう。皆さんが母校に愛と誇りを持ち、地域で活躍する医療人になってくれることを願っています。



院内にはアートを展示し、来院者の目を和ませている



眺望がよく、料理も工夫した特別室

鹿島鍋島藩主夫人が病床にあったとき網代天井から考案したという鹿島錦を、夫人の回復にあやかり病院外壁に取り入れている。2023年には立体駐車場、病院棟へ渡る横断歩道屋根、薬局2階に市民向け公開講座も可能な会議室を新設



佐賀大学医学部附属病院

SAGA UNIVERSITY HOSPITAL



各種データの解析で 「佐賀大学のこれから」を 可視化し将来の道標に



企画・将来計画担当理事(副学長、佐賀大学名誉教授)

大島 一里 OSHIMA Kazusato

農学博士。専門は植物病理学、ウイルス学。日本植物病理学会、日本ウイルス学会、九州病害虫研究会などに所属。植物ウイルスのユーラシア大陸における拡散経路を世界で初めて解明し、2021年「米国科学アカデミー紀要」に掲載

—理事が担当する、IR機能を活用したエビデンスベース法人経営推進プロジェクトについて教えてください。

IR(※)とは大学内外のさまざまなデータを入手・解析し、それを数値化して組織での意思決定や改善活動の立案・実行などに活かそうというものです。本学は大学マネジメントにおいて、IRの活用を全国に先駆けて導入し、注目を集めました。情報の可視化によって大学の特長が浮き彫りになり、将来に向けた活発な議論を呼ぶことができます。私はその議論の基となる情報収集及び解析等を主に担当しています。

私はこれまで植物・農作物のウイルスを研究対象とし、将来的には

—プロジェクトによってどのようなことが期待できますか。

情報の可視化によってこれまで漠然としていた大学の強み弱みが明らかになります。例えば本学の強みは教育と地域貢献であり、これまでに本学が力を入れてきた実績が顕在化しました。その一方、やや弱い部分については今後どのような指針を取るのか、改善するためにどんな方策を取るのか、議論していくことになるでしょう。教職員一同が同じ未来図をイメージでき、チームワークを発揮することが大切です。

このプロジェクトを通してステークホルダーである在学生、保護者、



佛淵元学長による全国初の大学IR解説書(2015年発行)



40数年の活動をまとめ、教え子が開いた退職記念祝賀会で披露

卒業生、地域の方々にも貢献すること。それが本学の存在意義であり使命の一つと考えています。

—学生に伝えたいことは?

本学に着任した当時の先生方の「現場が大事だ」という言葉を思い出します。新型コロナウイルスでおわりのようにウイルスは見た目ではわかりませんが、すごいスピードでどんどん変異そして進化しています。現場も気が付けないくらい速いスピードで動いていますので、机上で考えていては追いついていきません。現場で自分のみを感じた情報は一生自分を助けてくれませんが、皆さんも現場に出て「本物」を感じていただきたい。人生は一度きり、夢を持って多くのことにチャレンジしてください。皆さんには無限の可能性があるのでから。

研究成果を地域課題の 解決に結び、学生に自信 と佐賀愛を深めてほしい



研究・社会連携担当理事(副学長)

豊田 一彦 TOYODA Ichihiko

工学博士。NTT の研究所で無線通信用の高周波集積回路の研究、無線 LAN の標準化に関わる。本学では無線通信用の高周波回路やアンテナ、無線電力伝送など電波応用技術を研究。佐賀の旧跡や花の名所にも精通

— 理事が担当する、地域の課題解決に向けた地方自治体との連携推進プロジェクトについて教えてください。

現在、佐賀県との連携事業である「TSUNAGIプロジェクト」、本学と各自治体による「地域みらい創生プロジェクト」を展開しています。

「TSUNAGIプロジェクト」は、例えば「SAGA2024国スポ・全障スポ」に向け県民の競技力の向上を目指すもの、女子アスリートを支援するものがあります。また県産たまねぎやいちご、お茶に関する課題を解決しようとする取り組みもあります。「地域みらい創生プロジェクト」では武雄市の治水と街づくり、鹿島市の観光振興、有田焼の課題に向け

たものなどがあります。

令和元年度から開催している佐賀

県・佐賀大学連携調整会議でも県から大変好評で、2023年度は23件の研究に支援をいただきました。一昨年は、理工学部の三島伸雄教授らによる鹿島市の肥前浜宿の歴史的町並みを守る取り組みが「アジア都市景観賞」を受賞し、国際的に評価を受けました。最近では、農学部の宮本英揮准教授による地中埋設センサー等を活用した土砂災害前兆の早期検知システムの研究現場を佐賀県知事が視察されました。

— プロジェクトによってどのようなことが期待できますか。

佐賀大学の位置づけは、地域とともに発展していく大学です。研究成果を地域の課題解決に結びつけていくことで、自治体や産業界と大学が互いに



鹿島市の肥前浜宿。他に民俗芸能「面浮立」とダンスのクラブ、AIを使った民泊支援も



連携プロジェクトの具体例を「地域連携紹介マップ」として公開
https://www.suric.saga-u.ac.jp/s_regional_wp/saga_project_map/

刺激しあい、より発展していけると思います。また各種プロジェクトには学生も関わります。活動を通して佐賀県ならびに佐賀大学に対する愛を深めてもらえると嬉しいです。

— 学生に伝えたいことは？

本学は広い学問分野でレベルの高い教育・研究を行っており、多くの教員・学生が学会賞などを受賞しています。起業志望の学生にはバックアップがあります。在学生の皆さんにはこのような素晴らしい環境で学んだ学生として自信をもって社会に出てもらいたい。保護者の皆様には大学を信頼していただき、引き続きご支援を賜りたいと思います。またこれから進学する中高生の皆さん、ぜひ佐賀大学のことを調べてみてください。きっと気になることが見つかると思います。

社会で輝く 先輩からの メッセージ

2022年度の卒業生・修了生の

就職率は

99.3%(2023年5月1日現在)

と近年高い水準を維持しています。

いま社会で活躍している本学のOB・OGから

就職を目指す在学生へのメッセージを紹介します。



佐賀大学公式 マスコットキャラクター

名前	カッチーくん
性別	オス
誕生日	2月29日
年齢	ひみつ
好きなもの	いちご
苦手なもの	グリンピース、うめぼし
性格	心優しく、天然系。 でも好奇心は、鳥一倍

生まれ育った佐賀で地域の為に働く、福利厚生が充実している、多くの人と接することができる、の3点を軸に就活し、これらを満たす佐賀銀行へ入行しました。現在は人事部で従業員の労務管理、研修の運営、採用活動など行なっています。佐賀大学にも採用関係で度々伺っています。

学生の頃はサークル、野球(クラブチーム)、アルバイトで非常に忙しかったと記憶しています。もともと人と接することが好きでしたが、毎日たくさんの人と会い、ますますコミュニケーション能力が鍛えられました。人事へ移る前の営業職時代など非常に役立っていたと感じます。

今後企業のDX化が進み、事務職の需要は減少すると思われる。企業が求めるのはAIにできない「対人コミュニケーション」であり、応対力、営業力ではないでしょうか。在学生の皆さんには、できるだけ人と接する生活を送ってほしいと思います。それが自身のコミュニケーション能力を向上させ、将来に繋がるでしょう。また企業の「入社前のイメージ」と「入社後」は少なからずギャップがあります。就活では多様な業種を見ておくことをお勧めします。その分視野が広がり、改めて「自分はこの業種で働きたい」と分かってくるのではないかと思います。

「さまざまな業種を見て

視野を広げ、自分を知る」



平井 和徳

HIRAI Kazunori

佐賀北高等学校

経済学部経営法律学科

2009年卒業

株式会社佐賀銀行





磯田 広史

ISODA Hiroshi
長崎県立佐世保北高等学校
医学部医学科
2007年卒業

佐賀大学医学部附属病院
肝疾患センター

佐賀は肝臓がんで亡くなる方が全国ワーストレベル。研修医時代は肝臓内科が最も忙しく、肝がんの穿刺・焼灼治療やカテーテル治療、内視鏡治療など侵襲的な治療を多く経験し、やりがいを感じて入局。現在は消化器内科・肝臓専門医として診療しています。

2016年厚生労働省へ出向し、医系技官として法律や制度などのルールを変えて国全体の患者さんを救うダイナミックな医療行政を経験。2018年7月肝疾患センターの副センター長に就任し、佐賀県全体の肝がんを「仕組み」で減らすよう取り組んでいます。

学生時代は学園祭中心の日々で、3年生は設備局長でした。ステージ設営

からゴミの分別・運搬まであり、正直きつくて汚い仕事。やりたい人はあまりいません(笑)。でも学園祭には必須で、土台を支える立場です。仲間が作ってくれた「磯田がいればなんでもできる」のチームTシャツは今も宝物で、たくさんの交流から学んだ信頼や連携の大切さは、生涯の教訓となっています。患者さんであれ、学生さんであれ、自分が担当したからには「磯田でよかったですと思われよう全力を尽くします。皆さんも誰かに「あなたが担当でよかった」と言われるよう頑張ってください。そんなあなたを応援しています！



久米 祐介

KUME Yusuke
広島工業大学付属高等学校(現広島なぎさ高等学校)
理工学部電気電子工学科
理工学部博士前期課程工学系研究科電気電子工学専攻
理工学部博士後期課程エネルギー物質科学専攻
2008年修了

株式会社KMTec
(ケイエムテック)

入学当時マイクロソフトやソフトバンクの創業に刺激を受け、自分でモノ作りの会社を作り、世の中に役に立つものを生み出したいと起業を志しました。2006年大学院で仲間と株式会社KMTecを創業、環境問題やエネルギー問題を解決する商品を開発・製造しています。13年ほど前に省エネ・低炭素社会課題のため省エネ型蛍光灯を開発。また災害対策や災害に強い町づくりのため、防災用備蓄電池を自治体向けに特化して開発しました。避難所用ですが、在宅医療など数多くの医療現場でも使われています。九州全県はもとより北は北海道から南は沖縄まで、50を超える自治体で導入されています。

そんな私も、学生時代は毎日の授業とレポート、テストに追われていた。単位を取るための勉強でしたが、仕事をやる今も勉強は必要です。調べ方、覚え方などは地力になっていると思います。アルバイトもさまざま経験しました。学外で幅広い世代の方と出会うことは、実は重要です。誰とでも仲良くなれて、何でも聞ける気軽さを持つことは社会で大事ですから。KMTecは佐賀の企業として全国、さらに世界へ挑戦していきます。直近の目標は株式上場です。そして弊社の名を佐賀大学の全員が知る企業へと発展させていきます。

「世のため人のためになる

Light Workを目指して」



「ぜひ佐賀大学へ！心強い先輩たちがあなたを待っています」



本庄キャンパス全学生の修学から卒業、 さらに留学生の大学生活も支える

教務課 課長

高森 裕美子 TAKAMORI Yumiko



学内随一の大事業で 教務情報の全般を管理

教務課は若手から勤続ウン十年のベテランまで、39名の職員が在籍しています。主に本庄キャンパスにある各学部・研究科の時間割、履修登録、成績管理、卒業認定、教員免許などの資格関係等、教務全般にかかる業務を担当。また卒業証明書、成績証明書などの各種証明書の発行も行っています。学部・研究科ごとに担当職員があり、履修、修得単位等を中心とした修学相談、教員免許取得要件や教育実習に参加するにあたっての全体説明や個別相談などに対応しています。窓口においては対応を丁寧に行うなど、学生の



上は教務課窓口、下は留学生交流室。「スタッフは日舞の名取や筋トレする人など個性豊か」と高森さん

皆さんが親しみやすく相談しやすい存在となるように、スタッフ一同で心がけています。

令和4年度から「留学生交流室」が課内に設置されました。国際交流推進センターと共に、外国人留学生の受け入れや日本人学生の海外留学・派遣、キャンパス内の国際交流を担っています。職員は留学経験があり、英語を含む複数言語で対応できる者も多数います。

「美術館」も教務課の担当です。学芸員の資格を持つ職員が在籍し、展示企画、運営、施設管理を行っています。

留学生と日本人学生の 交流と国際化を目指す

留学生交流室では海外から



の留学生数と共に、日本人学生の海外派遣数の増加も目指しています。その施策の一つに、「グローバルサポーターズ」という学生グループの組織化があります。グローバルサポーターズは、日本人学生と外国人留学生が共に学び交流できる国際交流イベントなどを企画・運営する組織です。ここでは学生たちが主体的にキャンパスの国際化に取り組みながら、語学力や異文化対応力の他、企画運営力を磨いています。

このような外国人留学生と日本人学生が共修する機会の提供や、派遣交換留学制度や短期研修プログラムのさらなる充実などを進めるとともに、留学希望者へのアドバイザーなど、きめ細やかに対応しています。国際交流や留学に興味がある学生の皆さん、ぜひ留学生交流室へお越しください。

さまざまな場面でオンライン化が進み、人と人が接する機会が減りつつありますが、教務課では今後も気軽に窓口に来てもらえる場所でありたいと考えています。佐賀大学を選んで入学された皆さんが安心して修学できるよう、佐賀大学に入学してよかったと思われよう、サポート体制を充実させていきます。そして学生時代だからこそできることにたくさんチャレンジしてほしいと願っています。



カルチュラルナイトなどグローバルサポーターズのイベント情報はInstagram @saga_u.kokusai2021 まで



充実した大学生活を送れるように 学生の皆さんをサポート

学生生活課 課長

大石 一智 OHISHI Kazutomo

奨学金や就職、生活の 相談から落とし物まで

学生生活課は、修学に関する
こと以外の、学生生活全般
のサポートを行っています。
例えば、あらゆる疑問や悩み
に対応する「学生なんでも相
談窓口」をはじめ、奨学金・
授業料免除などの経済支援、
授業や部活動中のケガに対す
る保険、体育施設や寮の管理
などがあります。また、就職
支援として、会社説明会や合
同セミナーの企画・実施、就
職相談、インターンシップな
どを担当しています。

他に、あまり知られていな
いかもしれない3つの業務をこ
紹介しましょう。まずは、本
庄キャンパスの第2サークル
会館にあるトレーニング室も
管理しています。こちらは2
023年12月に壁や床などの
改修工事が完了し、数年前に
更新したトレーニング機器が
そろっています。室内履きを
持参で、どうぞご利用くださ
い。2つ目として、唐津市神
集島しむしまに佐賀大学の合宿研修所
があり、その管理を担当して
います。付近一带は玄海国立
公園という風光明媚な場所
で、28人まで収容可能。1日20
0円と1泊につき500円と
格安で、パーベキューセット
と釣り道具、電動自転車の貸
出も可能です。詳しくは大学



学生生活課にはさまざまな窓口があり、職員が親身になって
対応。「いつでも気軽にお越しください」と大石さん

のサイトでチェックしてくだ
さい。そしてもう1つ、学生
の落とし物を一定期間保管し
ています。当課には学生証、
携帯電話、キーホルダー、ア
クセサリー、自転車のカギな
ど、さまざまな落とし物が届
けられます。持ち主が分から
ないものは棚に並べていま
すので、心当たりがある人は一
度見に来てください。

**新しいセンターを始動し
さらに幅広く親身に支援**

学生生活課では、2022
年度に学生を対象に「100
円朝食」「100円昼食」を
初めて実施しました。目的は、
コロナ禍で不規則になった生
活リズムや食生活の改善、物
価高騰に対する経済的な支援
です。期間限定で、本庄キャ
ンパスでは100円で朝食を
提供し、鍋島キャンパスでは
100円で昼食の弁当を配り
ました。100円朝食を利用
した学生のアンケートによる
と、普段は朝食を「全く食べ
ない」「週の半分未満」とい
う回答が半数近くにのぼり、
この企画が朝食をとるきつ
かけになるといいなと思ってい



本庄キャンパス第2サークル会館のトレーニング室は自由に使える

ます。学生に大好評で継続を
望む声が多数寄せられたため、
2023年度も4〜5月と10
月に実施しました。

このように学生生活課は、
学生の皆さんが充実した大学
生活を送れるように緑の下で
支えるサポーターです。20
24年4月には、キャリアセ
ンターや学生支援室などを統
合・発展した「ウェルビーイ
ング創造センター」を始動しま
す。配慮が必要な学生をはじめ、
あらゆる人がより良く生きる
ために幅広い支援を展開する
予定です。これからも学生の
皆さんを全力で応援してい
ます。

未来の医療を担う人材育成の場として 学生に寄り添い、物心両面から支援

医学部学生課 課長

木下 勝浩 KINOSHITA Katsuhiko



教務から入試まで 幅広い業務を担う

医学部学生課は15名の職員によって、医学、看護学、医学系研究科、先進健康科学研究科の教務や入試関係、学生生活における課外活動及び福利厚生施設に関する業務などを行っています。その中に医学部独自の業務としてOSCE、CBT(※)という全国共通の標準評価試験の運営があります。この試験は、医学科生が臨床実習開始前に修得すべき知識と技能を持っているかを厳格に評価するもので、医師法で定められた公的な試験です。合格した学生が臨床実



1つの課で鍋島キャンパス全学生をサポート。教務から試験勉強、サークル活動までさまざまな相談に乗っている

習に臨めるという医学生にとっては重要な試験ですから、私たちも身が引き締まります。大学入学共通テストや国家試験、卒業認定の時期とも重なり、年末から春まで緊張は続きます。

コロナ禍で生まれた 学生応援企画

コロナ禍において、臨床実習やサークル活動の自粛を求められて生活が乱れ、また経済的な理由で満足に食事を摂れていないという声が鍋島キャンパスでもありました。そこで期間限定で「100円昼食(弁当)」を実施し、大変好評でした。国家試験の時期は食事や睡眠の時間を惜し



5月の医学部学園祭。「学生生活の記憶に残るものを応援したい。充実した顔を見ると胸が熱くなる」と木下さん

「学生中心の大学づくり」の 一助として力を尽くしたい

んで勉強する方も多いため、栄養バランスの取れた食事で活力を養ってもらおうと「国試応援企画100円弁当」も実施しました。構内での試験勉強に向けて自習室の準備なども行っています。体調管理を含め物心両面から細やかに皆さんを支え、それが私たちの務めだと思っています。

医学部構内は緑が多く、改修工事を終えた建物や病院は大変綺麗です。学生の皆さんと学生課職員との距離も近く、相談ごとがあればすぐ学生課を訪ねてくれます。また皆さんは何ごとにも一生懸命で、

医学部学園祭では授業と準備を両立し、当日に夜遅くまで撤収作業をしていたかと思っただけ翌朝には授業に出席して驚きました。学生生活においてはチューター制度によって数名ないし10数名に一人の先生が付き、一人ひとりに目が行き届いています。

このような恵まれた環境と学生の皆さんの真面目さと熱意、先生方の手厚いサポートは本学の魅力です。学生の皆さんにはその利点をうまく活用していただき、佐賀県の医療を支えていって欲しいと思っています。そのためにも私たち職員一同、皆さんのケアと「学生中心の大学づくり」に精一杯努めていきます。

※OSCE：4年生後学期（臨床実習前）と6年生前学期（臨床実習後）に受ける実技試験
CBT：4年生後学期に受ける学力試験



地域や企業との連携に力を入れて 「地域貢献度ランキング」全国8位に

社会連携課 課長

世利 政則 SERI Masanori

地域とのプロジェクトを紹介するサイトを開設

私たち社会連携課の主なミッションは、名前が示す通り、大学と社会をつなぐことです。14名のメンバーが2つのチームに分かれて、大学内外の人たちと活発にやり取りをしながら、仕事を進めています。「地域連携」担当チームは、地域連携プロジェクトの推進と、ベンチャー支援を管轄。「産学連携・知財」担当チームは、共同研究・受託研究などの推進と、知的財産手続き業務を行っています。

産学交流プラザを拠点に学生の起業を支援

社会連携課のオフィスは、本庄キャンパス正門右手の



社会連携課のオフィスは、にぎやかで明るい雰囲気。「実は、音楽やスポーツ、手芸など芸術者な職員がそろっています」と世利さん

本学では地域の課題解決や社会貢献をすべく、地域と共にさまざまなプロジェクトに取り組んでいます。2023年にはそれらをまとめて紹介するウェブサイト「佐賀大学地域連携紹介マップ」を開設しました。本学と自治体との協

「産学交流プラザ」の3階にあります。産学交流プラザは、産学連携に関わるすべての窓口です。最新の研究成果を展示しているインフォメーションコーナーや学生ベンチャーのオフィスを備え、昨年7月には2階にコワーキングスペースをオープン。起業に興味のある学生向けのセミナーやプレゼンイベント、教職員も対象にした起業家支援講演会などを開催しています。最近

果であり、学生や卒業生、保護者、教職員、関わってくださった方々の自信と誇りにつながるものとうれしく思っています。ただし、さまざまな学校で働いてきた私から見ると、本学にはまだまだ可能性と伸びしろがあります。さらに魅力ある大学に磨き上げるために社会連携課も尽力しますので、ぜひご期待ください。

日本経済新聞社が隔年度で実施している「大学の地域貢献度ランキング」の2023年版で、佐賀大学は全国768校の中から総合8位に輝きました。昨年度40位から大きくジャンプアップして、国立大で5位という快挙です。本学がこれまでコツコツ積み上げてきた実績が評価された結



学生が自由に使えるコワーキングスペース

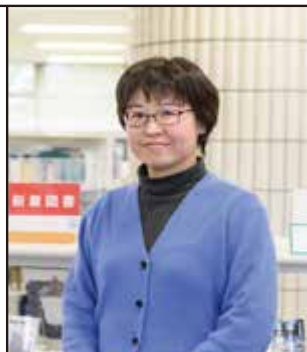


産学交流プラザの中庭でクリスマスイベントを開催

学生や教員の学びと研究を支援する 資料・情報・スペースが充実

情報図書館課 課長

別府 妙子 BEPPU Taeko



学生・教職員が求める 学術情報や学習環境を提供

佐賀大学には本庄キャンパスにある附属図書館本館と、鍋島キャンパスにある医学分館の2つの図書館があり、私たちが情報図書館課が管理・運営を担当しています。図書館へは本学の学生・教職員だけでなく、学外の方も入館でき、カードを作れば貸出も可能です。

図書館では、図書や雑誌をはじめとする紙の資料はもちろん、電子ジャーナルやデータベース、電子書籍など、さまざまな学術情報を収集・整理しています。それらを学生や教職員に提供することで、大学にお



附属図書館本館1階には、情報図書館課のオフィスが2つある。本に詳しい職員が多く、和気あいあいとした雰囲気

ける教育や研究を支援しています。当課の主な業務には、資料の購入・契約、図書館システムへのデータ登録、資料の貸出・返却、他大学などからの文献の取り寄せ、調べものをお手伝いするレファレンスサービスがあります。

本館の1・4階は会話ができるアクティブフロアで、グループでの勉強やミーティングに適しています。2・3階はサイレントフロアで、図書や学術雑誌、閲覧個室を配置。医学分館にはコラボレーションエリア、ディスカッションルーム、サイレントエリアがあります。Wi-Fiもつながり、学習しやすい環境を提供しています。

貴重書の展示や 多彩なイベントも開催

情報図書館課では、いろいろな企画を行っています。例えば、本館4階の貴重書展示エリアでは、数か月毎に資料を入れ替えて、本学所蔵の貴重書を展示。また、小城鍋島藩の藩主の家に代々伝わる歴史史料など約1万点を寄贈いただいた「小城鍋島文庫」や「市場直次郎コレクション」など、図書館に所蔵する貴重書コレクションの一部はデジタル化し、「貴重書デジタルアーカイブ」としてインターネット上で公開しています。

本館では毎年、読書週間を含む10月末から11月末を「図書館月間」として、地域学歴史文化研究センターと企画した展示やイベントなどを行っています。2023年は「牧野富太郎の図書展」小



学生が作成したポップ

城藩日記の世界を開催。学生や教職員、地域の方など800人以上が来場されました。

2022年度は期間限定で「図書館ポイントカード」を導入し、図書館の利用に応じたポイント数で図書カードをプレゼントしました。おすすめ図書のポップ作成でもポイントを付与したところ、600枚ほどのポップが集まり、今も図書の紹介に活用しています。他にも昨年10月には、本館のエントランスホールで初めて「ランチタイムコンサート」を開催。佐賀大学管弦楽団の学生4人による素敵な演奏を披露してくれました。

図書館では毎年、新入生にオリエンテーションも行っています。好きな本を読んだり、調べ物をしたり、みんなで勉強したりといういろいろな使い方ができますので、どうぞ気軽にお越しください。



図書館情報誌「さらり」を年1回発行。図書館のキャラクター「らいぶくん」と「らりいちゃん」は職員が描いている



どんどん変化する時代に、自信を持って 社会の一員となれるよう多様性を推進

ダイバーシティ推進室 副室長
荒木 薫 ARAKI Kaoru

何にもとらわれず個性を生かせる環境を作る

ダイバーシティとは「多様性」という意味です。推進室のスタッフたちも年齢、性別、バックグラウンドも様々。コンパクトな部署で、私自身は本庄キャンパスの保健管理センターに所属する医師でもあります。

学生だけでなく、教職員も含む全員がそれぞれの個性を生かしながら、勉強しがいのある、また働きがいのある大学であることを目指し、ダイバーシティを推進しています。具体的には女性研究者支援、性的マイノリティ、障がい者の支援、育児や介護と仕事の



「Musubime(むすびめ)」で紹介している先生方。
(<https://musubime.saga-u.ac.jp>)

両立などです。制度の見直しや普及啓発のための講演会など、今の佐賀大学に必要と思われることを、他部署とも連携、協力しながら皆で力を合わせて行っています。

女性研究者や理系志向の女子中高生らを支援

今最も力を入れているのは女性研究者支援です。一つは、本学の女性研究者を紹介したウェブコンテンツ「Musubime(むすびめ)」です。先生方の研究内容から人柄までを動画で丁寧で紹介することで、国内・国外との共同研究のきっかけとなつていきます。また、佐賀出身で女性化学者のパイオニアである黒田チカ博士を称え、「佐賀大学黒田チカ記念賞」を2023年度より設立しました。本学の女性研究者と女性研究者を支援するグループの活動を表彰するもので、第一回目の表彰は2024年2月に行いました。日本の女性研究者は世界的に見て少ないと言われますが、佐賀大学は魅力的な先生方が多く、学生や地域の皆さんにもっと知って欲しいと思っています。

「無意識のバイアスマネジメント」(YouTube)



教職員版



学生版

ダイバーシティを進めるためには周囲の理解も欠かせません。そのために私たちは「無意識のバイアス(偏見)マネジメント」という教育動画を制作しています。無意識の偏見とは、例えば「女の子はピンク」「男の子は青」のような誰でも持っているもの。まず自分の中にある偏見に気づくことが大切です。動画は「はじめて知った」「分かりやすい」と好評で、他の大学や企業の方にもご活用いただいています。他にも、女子中高生を対象とした「継続・育成型 STEAM ガールズ in SAGA・SASE-BO」はこれまで約3千人が参加してくれました。夏休み



教職員の家庭が対象の夏の学童保育。学生も参加し子どもたちと盛り上がる

には小学生を対象に、学内学童保育を行なっています。「かちがらす」100号が出る頃には、ダイバーシティが当たり前の風景となつていくことでしょう。そのためにも皆さんが何にもとらわれず、のびのびと社会へ飛び立てるよう、環境を作っていきます。



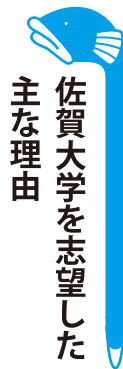
「継続・育成型 STEAM ガールズ in SAGA・SASEBO」(通称リケフェス)では理系を目指す女子中高生を応援

生き物のおかげで 物事を多角的に 見られるようになりました



佐賀大学農学部
やながわ有明水族館館長 亀井 裕介
(令和6年4月から名誉館長)

もともと佐賀の自然環境がすごいということは知っていたんですが、佐賀は出身地の福岡と比較して人や研究者が少ない、ある意味「未開の地」なので開拓し放題だと思って佐賀大学を志望しました。ひと言でいうなら「自然環境に惚れた」ということが主な志望理由ですね。

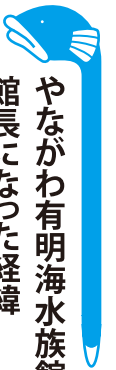


佐賀大学を志望した 主な理由



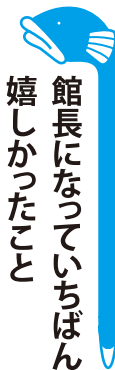
鍾乳洞での生き物調査活動

今回は、「やながわ有明水族館」の館長を務める亀井裕介さんにお話を伺いました。亀井さんは農学部1年生(令和5年12月取材時点)。生き物サークル「Green・Nexus」をはじめ、いくつかのサークルにも所属する学生でありながら、水族館の館長の仕事もこなし、テレビ出演、佐賀新聞のコラム掲載や本の執筆など精力的に活動されています。



やながわ有明水族館の 館長になった経緯

自分は小さなころから自然に囲まれて育ちました。ここ数年の年越しの瞬間は山にいたくらいです(笑)。自然の中にいることが生活の一部でした。そんな中、小学校4年生の時、沖縄美ら海水族館でジンベエザメを見て本当に泣いたほど感動したんです。それ以降いろんな水族館を巡るようになり、6年生の時にやながわ有明水族館にたどり着きました。ここは川に生息する、自分にとって身近な生き物を展示しています。水族館のような世界が川の中にも広がっているんだと知って、そこから川の生き物にハマりました。やながわ有明水族館は自分にとっては「川魚の学校」でした。夢中で通ううちに水族館の皆さんと知り合いになっていき、気付いたら館長交代のタイミングで自分が館長になっていました(笑)。うちの水族館のスタッフはボランティアなので給料はできませんし、契約書もありません。でもそんなところも好きで館長をしています。



館長になっていちばん 嬉しかったこと



展示用の生き物は自ら投網で捕獲します！

水族館で受付をしていた時、小学生の女の子が来て玄関に展示している亀に興味津々な様子でした。そこで「この子はすっぽんさんです」と説明したら、目をキラキラさせて聞いてくれました。ただ亀を触るのは怖くてできないようでした。少し残念だったんですけど、生き物には興味あるみたいだったので、他にもいろいろと解説して回りました。そうしたら帰る時、その女の子が「亀を触ってみたい」と言ってくれて！ この子に生き物の魅力を伝えられたんだなと思って、飛び上がりそうなほど嬉しかったです。



講演会の様子。普段から観察会や講演会などの出演依頼が殺到して大忙しの亀井さん。大事な授業に講演が重なってしまったこともあるそうです



亀井さん一推しの巻貝「ホラアナミジンコ」。最大でも1.8mmほどの微小な巻貝で淡水に生息しています



生物についての話は特に熱が入る亀井さん。その生態から分布まで、驚くほど詳しく解説してくれました

生き物を身近に感じてもらうことですね。講演でも、「生き物は絶対身近にいる存在だからその身近な世界をのぞいてみよう」という言葉をよく締めに使っています。佐賀って本当に自然環境が身近にあつて、かつそれを伝えやすい場所だと思っています。そこそ水路がそこら中にあり、そこを少し覗いただけでもカゼトゲタナゴのような希少種を見つけられます。だから、本当に身近なところに自然環境があつて、そこには知らない世界が広がっていることを伝えたいと思っています。

活動をする上で大切にしていること

佐賀は本当に日本を代表する淡水生物の聖地、水路の聖地です。全国的に見ることが難しくなった淡水生物を、学内やコンビ二脇の水路で見ることができません。ぜひ皆さんの周りの環境やそこで暮らしている生き物について関心を向けてもらえたら嬉しいです！

佐賀は淡水生物の聖地

生き物について学んでいくなかで、いろいろな世界を見るのができ、生き物以外の知見も深まったと思います。特に「物事を多角的に見られるようになった」というのが、これまでの活動を通して得られたものの一つです。生き物について考える時に生き物以外の視点からもアプローチするようになったことに自分でも成長を感じています。将来は生き物に関わる仕事へ進むつもりですが、在学中に「自分なりの生き物との関わり方を見つけない」と思っています。

これまでの活動を通して得たもの



営業：平日 12:00~16:30 (火曜休館日) 土日祝 11:00 ~ 17:00
 料金：小学生~高校生：100円 / 大人：300円 / 幼児：無料
 住所：福岡県柳川市稻荷町 29
 Mail：spera2424@gmail.com
 HP：https://www.spera-morisatoumi.com/



左から亀井裕介さん、学生広報スタッフの乗京志帆（経済学部2年）、原奈緒佳（経済学部2年）野間千博（芸術地域デザイン学部2年）



SAGA UNIVERSITY PReSS

Public Relations Student Staff

学生広報スタッフ 「第2期生」始動!

昨年から広報活動をお手伝いしてくれたメンバーに加えて、10月から新たに2期生が加入し新たなスタートを切りました! 様々な学部から構成された2期生は、それぞれの特性を活かして、広報誌制作、SNS運営、グッズ制作、動画配信といったグループに分かれて活動しています。

学生目線で
効果的な広報活動

前ページの「イキイキ佐大生」は、企画・交渉・日程調整・取材・撮影・原稿の作成まで全て広報誌制作グループが担当しています。

SNS運営グループでは、これまでリクエストの多かった学内の風景をスナップショットとして公開したり、マスクोटキャラクター「カッチーくん」のイラストを投稿して多くの「いいね」をいただいています。



様々なタッチのカッチーくんがSNSを賑わせています!

グッズ制作グループではなんと、LINEスタンプ第3弾「着ぐるみ編」を制作しました! 打合せを重ねて意見をまとめた後、どんな絵柄にするのかを複数でスケッチ、最も適したイメージを選んで撮影に臨みました。大粒の汗をかきながら全40パターンを1日かかりで撮影しました。学生広報スタッフの努力の結晶、皆さんに使っていただけたら嬉しいです!



カッチーくん役のアクターも、それを撮影するのも学生広報スタッフです



佐賀大学の
カッチーくん
(着ぐるみ編)

最後に紹介するのは動画配信グループ。学生広報スタッフの中には放送部出身でアナウンス能力に長けたメンバーも在籍しています。現在ショート動画や新しい動画コンテンツを企画していますので、皆さんご期待くださいー!

学生広報スタッフの活動はYouTube「さきどり情報局2月」でも特集しています。こちらもぜひご覧ください。



さきどり情報局

10名様に当たる! 読者プレゼント

読者アンケートにお答え頂いた方の中から抽選で10名の方に、佐賀大学オリジナルグッズをプレゼントいたします!
Webアンケートからご応募ください。
応募期間は5月末日迄。
当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。たくさんの応募をお待ちしています!



Webアンケート



10名

カッチーくん推しは何としても手に入れたいアイテム!

佐賀大学基金ご寄附者芳名帳(令和5年7月～令和5年12月現在)

佐賀大学基金へのご協力を、心より御礼申し上げます。

ご寄附いただきました方々への感謝の意を込めまして、ここにご芳名を掲載させていただきます。

【佐賀大学美術館募金】

百武整形外科病院様	大石 みち子様	大平 明様	門井 エツ子様	(株)佐賀IDC様	久保 正子様	進 孝子様
税理士 諸井会計様	谷口 みゆき様	原口 庄 塑様	平井 明子様	平山 伸様	諸井 政司様	山本 良様
他5件						

【佐賀大学基金(一般基金)】

青木 一彦様	麻生 愛様	荒木 順一郎様	池永 佳子様	市川 敦士様	岩田 征夫様	太田 寛之様
大坪 敏郎様	小川 茂様	落石 猛様	梶川 隆信様	(株)佐賀銀行様	佛中山ホールディングス様	川原 菩提様
北村 博様	草場 俊明様	古賀 常次郎様	古賀 幸子様	古賀 渡様	小松 邦昭様	坂本 和子様
島内 大日児様	島田 愛子様	城 顯様	瀧川 一平様	立場 久雄様	田中 秀明様	田中 聖豪様
築波 美智子様	津田 信次様	西川 泰右様	西本 健一様	野田 茂行様	波左間 雅範様	橋本 朋雄様
服部 喜久様	原田 之治様	東島 與一郎様	福永 芳則様	藤家 常善様	野副 証真(稔)様	松本 一宏様
丸山 正幸様	光岡 理學様	三橋 彰弘様	宮原和夫・佐和子様	村上 浩様	森 公義様	雪竹 智様
芳野 絢充様	他21件					

【修学支援基金】

池田 昌彦様	池 富 香理様	泉 敬一郎様	浦川 智子様	大家 朝子様	大石 剛及様	奥野 弘也様
帯田 輝幸様	金子 正久様	川崎 健二様	篠原文 夫様	陣内 義守様	宋 尚子様	高橋 浩一郎様
竹下 勉様	田代 高規様	中嶋 真也様	成 房正 樹様	野間 格様	林田 貴子様	藤井 鹿男様
藤田 正明様	藤松内科医院様	古田 一陽様	御手洗 永様	宮田 正史様	山口 元子様	他10件

【課外(一般)活動支援基金】

木戸 宏幸様	他38件
--------	------

【課外(漕艇部)活動支援基金】

芦原 美沙様	天野 浩司様	雨森 貞浩様	雨森 泰己様	池 満 仁 司様	大久保 秀祐様	大谷 茉希様
大坪 健様	小野寺 篤様	柏田 知美様	嘉村 朋顕様	嘉村 真知子様	岸川 馨一郎様	木村 直也様
桑野 彰人様	坂口 恵亮様	佐藤 理様	七田 茂輝様	柴田 瑛帆様	柴田 泰佑様	下地 桐子様
正 覺 光 一様	千田 啓介様	高松 裕一郎様	高森 聖人様	田中 理司様	田中 新夏様	橋本 雄二様
原井 綺音様	広瀬 正和様	穂積 かおり様	前田 翼様	馬島 基則様	松藤 祥平様	三根 大悟様
三好 篤様	安武 結衣様	山川 耕平様	雪本 薫平様	他18件		

【課外(ヨット部)活動支援基金】

田中里 紀様

【課外(軽音楽部)活動支援基金】

5件

【課外(準硬式野球部)活動支援基金】

江村 正様	尾形 善康様	加治 亮平様	神田 佳洋様	古賀 佑一様	須田 久雄様	徳永 琢也様
諸隈 宏之様	他2件					

【課外(アメフト部)活動支援基金】

高田 俊行様	他8件
--------	-----

【院内保育所事業基金】

2件

お問い合わせ先

佐賀大学基金事務局
(佐賀大学総務部総務課内)

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
TEL 0952-28-8390 FAX 0952-28-8118
E-mail kikin@mail.admin.saga-u.ac.jp
URL https://www.kikin.saga-u.ac.jp

いただいたご寄附により、奨学金の給付、課外活動の備品購入等に使用させていただきました。今後とも更なるご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

また、多数の卒業生からもご寄附をいただいておりますが、卒業生への広報活動には佐賀大学同窓会のご協力をいただいております。この場を借りて御礼申し上げます。



■五十音順にて掲載しております。■お名前の公表をご希望されていない方につきましては、人数のみ掲載しております。万が一お名前が漏れている等の不備やお気付きの点等がございましたら、誠に恐縮ではございますが、佐賀大学基金事務局までご連絡ください。

佐賀大学校友会は、在学生の海外留学、国際活動や課外活動、ボランティア活動などで頑張っている学生への支援を行っています。

佐賀大学校友会では会員になっていただける方を募集しています。

校友会事業の詳細については、佐賀大学校友会HPに掲載しております。

佐賀大学校友会の活動についてご賛同いただきご入会いただきますようお願いいたします。

詳細はこちらでご確認下さい。

佐賀大学校友会HP <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp>

●会員制のため、ご芳名は公表しておりません。

問い合わせ先

佐賀大学校友会事務局

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
(佐賀大学総務部総務課内)

電話 0952-28-8390 FAX 0952-28-8118

E-mail: koyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp



誌上ギャラリー

令和5年度 芸術地域デザイン学部 / 大学院地域デザイン研究科 卒業・修了制作展



日本画「遠くなった、でもそこにある」
中原 環



西洋画「dolls」
山口 知咲



情報デザイン「Himalaya Mineral Museum Project」
高田 晴菜



情報デザイン「白い嘘」
井原 さくら



映像デザイン「Music Hall」
田畑 祐莉



本学の情報をスマートフォンで見ることができます。簡単アクセスはQRコードをご利用下さい。
スマートフォン用 URL:<https://www.saga-u.ac.jp/sp/>

